

名古屋市議会 5月臨時会 (5月15日)

議長・副議長選挙を実施

田口一登・岡田ゆき子候補が所信表明

5月15日、名古屋市議会 5月臨時会で議長・副議長選挙が行なわれ、日本共産党からは議長候補に田口一登議員、副議長候補に岡田ゆき子議員が立候補し、議会の民主的の改革に挑む所信表明をしました。

選挙結果は右の通りです。

選挙結果 (議員定数68 ○が当選)

議長選挙		副議長選挙	
○中里高之(自)	62票	○山田昌弘(民)	63票
田口一登(共)	5票	岡田ゆき子(共)	5票
無効	1		

議長選挙にあたっての所信表明

田口一登



新型コロナウイルス感染症から、市民の暮らしと営業、いのちを守るため、あらゆる手立てをつくすことが求められています。本市会は、議会基本条例に則って、充実した議案審議と闊達な討論、執行機関にたいする監視・評価、活発な政策立案・政策提言などに努めてきましたが、新型コロナウイルス感染という未曾有の危機に際して、こうした議会の役割をさらに果たすことによって危機を乗り越えることができるよう、議員の皆様とともに全力で取り組んでまいります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染は、議会活動にも様々な制約をもたらしています。とりわけ制約されているのは、市民が議会の活動に参加する機会の確保や市民への情報公開であります。

本市会では、緊急事態宣言期間中の委員会の一般傍聴を

認めず、本会議の傍聴も自粛を求め、請願や陳情の審査における口頭陳情や市民3分間議会演説も実施を見送っています。議会報告会は、市長が開催経費の予算化を拒否していることから開催できずにきていますが、新型コロナ感染の下では、開催すること自体を自粛しなければなりません。

こうした一連の対応は、感染拡大防止のためにはやむをえないと考えます。しかし、自粛一辺倒では議会に求められている役割を果たすことができません。感染防止の対策に最善をつくしつつ、いかにして議会の役割を果たしていくのか、とりわけ市民参加や情報公開を進め、市民に開かれ、市民に身近で存在感のある議会を作り上げていくのか。たとえば、インターネットを使つての議会報告会やSNSを活用した市民意見の反映、「市会だより」の毎月発行と紙面の充実などが考えられるでしょう。新型コロナ感染の下での議会活動の改善に、皆様とともに知恵を出し合い、取り組んでまいりたいと思っています。

以上、私の所信の一端を述べさせていただきました。ご賛同をよろしくお願いいたします。

副議長選挙にあたっての所信表明

岡田ゆき子



私は、副議長として、議長を補佐し、公平公正な議会運営に努め、市政の監視役として議会が役割を果たすよう力を尽くしてまいります。新型コロナウイルス感染症の完全な終息が見えない中、立候補にあたり、議会が取り組むべきことを3点お話しし、所信表明といたしたいと思います。

第1に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に全力を尽くすことです。感染拡大を防止するため、個人や事業所に対し、外出自粛・休業要請を続けています。自粛により、感染者数はピーク時から減少がみられるようになりましたが、一方で、休業に対する補償が後手となっており、多くの個人や事業所が苦境に陥っています。

今後事態が長丁場となることは予想されるため、「自粛

と一体に補償を実施すること」を基本に据えた施策をすすめるため、議会として、知恵を絞り、皆さんと力を合わせてまいります。

第2は、現在、地方自治体が、PCR検査体制でも暮らしや営業の支援でも、国の施策をリードする役割を果たしており、地方の取り組みが国の施策に反映されるという流れが生まれています。名古屋市が国の施策を前に動かすような役割を発揮するために、政令市議会とも連携し積極的国に提言するような、役割を果たしてまいります。

第3に、市民や事業所の苦難に心を寄せることが出来る議会となることです。コロナの影響でみんなが苦しんでいるときに、連帯して苦境を乗り切ろうという立場で、議員報酬の削減を含め、市民目線で不要不急の事業や制度の見直しの議論を、感染対策をしっかりと図りながら、進めてまいります。

以上、私の所信の一端を述べさせていただきました。どうかご賛同いただきますようよろしくお願いいたします。